平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年7月30日

上場会社名　株式会社ダスキン　　上場取引所　東
コード番号　4665　URL　http://www.duskin.co.jp/corp/index.html
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 山村　輝治
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役　(氏名) 鶴見　明久　TEL 06-6821-5071

四半期報告書提出予定日　平成25年8月12日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	41,818	2.9	1,525	△39.6	2,046	△35.8	1,150	21.3
25年3月期第1四半期	40,635	△5.3	2,526	2.8	3,187	2.0	948	△44.0

(注)包括利益　26年3月期第1四半期　1,626百万円　(36.7%)　25年3月期第1四半期　1,189百万円　(△37.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	18.27	―
25年3月期第1四半期	14.75	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	197,935	152,254	76.4
25年3月期	202,375	152,811	75.1

(参考) 自己資本　26年3月期第1四半期　151,304百万円　25年3月期　151,891百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	―	20.00	―	20.00	40.00
26年3月期	―				
26年3月期(予想)		40.00	―	20.00	60.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無
平成26年3月期(予想)第2四半期末配当金の内訳　普通配当　20円00銭　記念配当　20円00銭

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	84,500	2.9	3,100	△34.8	3,900	△32.1	2,400	△19.1	38.35
通期	173,000	2.9	6,300	△31.5	7,800	△29.3	4,400	△27.8	70.31

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	64,994,823 株	25年3月期	64,994,823 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	2,414,369 株	25年3月期	1,913,819 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	62,955,664 株	25年3月期1Q	64,285,447 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きを実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

当社は、平成25年6月24日付で500,000株の自己株式の取得を行っております。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、当該自己株式取得後の発行済株式数(自己株式数を除く)により算定しております。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
（四半期連結損益計算書）
（第１四半期連結累計期間 ） …… 6
（四半期連結包括利益計算書）
（第１四半期連結累計期間 ） …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期連結累計期間（平成25年４月１日～平成25年６月30日）の我が国経済は、政府の金融緩和策を背景に円安株高基調で推移する等、景況感には改善の兆しが見られました。しかしながら、電気料金の値上げ、原材料価格の上昇等の不安要因を抱える中で為替・株式相場は乱高下する等、本格的な上昇局面に入ったとは言い難い状況で推移しました。

このような環境の中、当社は当期創業50周年を迎えました。期初より、これまでの感謝を込めた謝恩活動をフランチャイズ加盟店と一丸となって展開すると共に、“仕組みの改革”を推し進めており、一人でも多くの方に、当社の商品・サービスをご利用いただくべく、中期経営方針の基本方針に沿った取り組みを継続しました。

以上の結果、当第１四半期連結累計期間の業績につきましては、連結売上高は418億18百万円（前年同期比2.9%増）となりました。一方、連結営業利益は15億25百万円（前年同期比39.6%減）となり、各セグメントが減益となりました。それに伴い、連結経常利益も20億46百万円（前年同期比35.8%減）と減益となりましたが、連結当期純利益は、前年同期にあった投資有価証券評価損の計上が無くなったことを主因として増益となり、11億50百万円（前年同期比21.3%増）となりました。

＜セグメント毎の状況＞

①クリーンケアグループ

清掃関連用具のレンタルや清掃美化関連のサービスを手掛けるクリーン・ケア事業は、家庭市場においては、当社の商品をその場で実際に体感していただける催しを全国各地のショッピングセンター等で、「オタメシ祭り」と銘打って多数開催し、気軽に試用していただくお客様を増加させることに注力しました。従来商品より高機能でスタイリッシュなフロアモップ「ＬａＬａ」、ハンディモップ「ｓｈｕｓｈｕ」に、集めたゴミやモップに着いたホコリを吸い取る置き型式掃除機「ダストクリーナー」を組み合わせた“お手軽本格おそうじ”を訴求し、それらの商品のレンタル売上は順調に増加しましたが、それ以外のモップ商品の売上が減少したことから、家庭用ダストコントロール商品の売上は前年同期を下回る結果となりました。しかしながら、ハウスクリーニング等の家庭向け役務提供サービスは、エアコンクリーニングサービス、家事おてつだいサービス等が順調に推移し前年同期を上回った結果、家庭市場の売上は前年同期を上回りました。

一方、事業所市場は引き続き厳しい状況が続いており、清掃用具レンタルに清掃サービスや害虫駆除、衛生管理サービス等を加えたオーダーメイドの総合提案を繰り返し行う地道な営業活動に引き続き注力しましたが、ダストコントロール商品の売上が減少したことを主因に、前年同期の売上を下回る結果となりました。床の清掃業務等の事業所向け役務提供サービスの売上は、清掃管理サービスは減少したものの、エアコンクリーニングサービスや害虫駆除サービスは増加し前年同期を上回りました。

以上の結果、その他の事業を加えたクリーンケアグループ全体の売上高は273億35百万円（前年同期比0.8%増）となりました。一方、創業50周年謝恩活動により販売促進費用が増加し、営業利益は33億５百万円（前年同期比6.2%減）となりました。

②フードグループ

ミスタードーナツ事業は、ブランド価値向上を目指し、おいしさを追求する取り組みとして、今まで以上にドーナツの風味を高めるフライングオイルを開発し、４月に導入しました。同時に、ドーナツをコーティングする「グレーズ（砂糖蜜）」をリニューアルすると共に、「オールドファッション」等の人気ドーナツ生地を、原材料の選定、配合の分量等細部に亘って改良し、「ＴＲＹ！　ＮＥＷ　ＭＩＳＤＯ！」と題したプロモーションを展開しました。その他、今年１月に大好評を得た「ポン・デ・リング生」の新商品やカルピス株式会社とのコラボレーション商品「カルピス®ドーナツシリーズ」等、楽しさと話題性のある商品展開と人気タレントを使った宣伝広告に注力した結果、前年同期の売上を上回りました。

以上に、前期の第２四半期に連結子会社化した蜂屋乳業株式会社の第１四半期を加えたフードグループ全体の売上高は117億47百万円（前年同期比7.9%増）となりました。一方利益面については、「ＴＲＹ！　ＮＥＷ　ＭＩＳＤＯ！」の宣伝広告費用が増加したことで、２億45百万円の営業損失（前年同期は営業利益４億31百万円）となりました。

③その他

海外のミスタードーナツ事業は、タイ、フィリピン、マレーシアは好調に推移したものの、台湾、中国（上海）、韓国の３地域においては、不採算店をクローズし店舗数が減少したことを主因として、前年同期の売上を下回りました。その結果、売上合計では微減となりました。

一方、海外のクリーン・ケア事業は、展開している台湾、中国（上海）、韓国の３ヵ国すべてで前年同期の売上を上回りました。台湾は、役務提供サービスが順調に伸長しており、韓国ではダストコントロール家庭市場のお客様数が順調に増加しました。

以上の結果、リース事業等を営むダスキン共益株式会社等の関係会社を加えた、その他全体の売上高は27億35百万円（前年同期比3.9%増）、営業利益は１億53百万円（前年同期比17.3%減）となりました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

（２）財政状態に関する説明

当第１四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,979億35百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という）と比較して44億39百万円減少しております。その要因は、現金及び預金が11億71百万円増加したことに対し、短期資金運用等の有価証券が59億99百万円減少したこと等であります。

負債残高は456億81百万円となり、前期末と比較して38億81百万円減少しております。その要因は、未払法人税等が17億51百万円、賞与引当金が17億72百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,522億54百万円となり、前期末と比較して５億57百万円減少しております。その要因は、その他有価証券評価差額金が３億99百万円増加したことに対し、自己株式の取得により９億６百万円減少したこと等によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年３月期（平成25年４月１日～平成26年３月31日）通期及び第２四半期累計期間の業績予想につきましては、平成25年５月15日に公表した従来の予想を変更しておりません。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

連結子会社の税金費用については、当第１四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,255	20,426
受取手形及び売掛金	10,366	10,576
リース投資資産	1,782	1,750
有価証券	13,998	7,999
商品及び製品	6,203	7,014
仕掛品	175	226
原材料及び貯蔵品	2,133	2,032
繰延税金資産	2,609	2,111
その他	2,684	3,049
貸倒引当金	△46	△47
流動資産合計	59,162	55,140
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	42,138	42,224
減価償却累計額	△24,262	△24,520
建物及び構築物（純額）	17,876	17,703
機械装置及び運搬具	23,624	23,749
減価償却累計額	△17,247	△17,463
機械装置及び運搬具（純額）	6,376	6,286
土地	24,231	24,231
建設仮勘定	279	554
その他	13,683	13,065
減価償却累計額	△9,328	△9,103
その他（純額）	4,355	3,962
有形固定資産合計	53,120	52,738
無形固定資産		
のれん	688	715
その他	7,788	7,524
無形固定資産合計	8,477	8,240
投資その他の資産		
投資有価証券	67,684	68,270
長期貸付金	108	63
繰延税金資産	5,147	4,972
差入保証金	7,498	7,446
その他	1,385	1,265
貸倒引当金	△209	△203
投資その他の資産合計	81,614	81,815
固定資産合計	143,212	142,794
資産合計	202,375	197,935

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,975	6,536
1年内返済予定の長期借入金	99	99
未払法人税等	2,066	315
賞与引当金	3,362	1,590
ポイント引当金	1,292	1,314
資産除去債務	2	6
未払金	6,229	5,960
レンタル品預り保証金	10,326	10,219
その他	4,443	4,636
流動負債合計	34,798	30,681
固定負債		
長期借入金	89	63
退職給付引当金	13,284	13,559
債務保証損失引当金	11	6
資産除去債務	592	588
長期預り保証金	748	744
長期未払金	37	37
その他	0	0
固定負債合計	14,764	15,000
負債合計	49,563	45,681
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	10,841	10,841
利益剰余金	132,222	132,110
自己株式	△3,092	△3,998
株主資本合計	151,323	150,305
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	943	1,343
繰延ヘッジ損益	△3	－
為替換算調整勘定	△371	△344
その他の包括利益累計額合計	568	998
少数株主持分	919	949
純資産合計	152,811	152,254
負債純資産合計	202,375	197,935

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第１四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年６月30日）
売上高	40,635	41,818
売上原価	22,537	23,442
売上総利益	18,098	18,376
販売費及び一般管理費	15,571	16,851
営業利益	2,526	1,525
営業外収益		
受取利息	233	244
受取配当金	134	128
設備賃貸料	35	30
受取手数料	55	47
持分法による投資利益	12	－
営業権譲渡益	131	11
雑収入	116	124
営業外収益合計	719	586
営業外費用		
支払利息	1	0
持分法による投資損失	－	32
為替差損	17	－
支払補償費	4	15
雑損失	34	16
営業外費用合計	58	65
経常利益	3,187	2,046
特別利益		
固定資産売却益	5	1
投資有価証券売却益	55	－
その他	8	1
特別利益合計	69	2
特別損失		
固定資産売却損	7	2
固定資産廃棄損	40	13
投資有価証券評価損	1,019	－
その他	4	0
特別損失合計	1,072	15
税金等調整前四半期純利益	2,185	2,033
法人税等	1,208	854
少数株主損益調整前四半期純利益	976	1,178
少数株主利益	28	27
四半期純利益	948	1,150

（四半期連結包括利益計算書）
（第１四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年６月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	976	1,178
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	120	397
繰延ヘッジ損益	△6	△0
為替換算調整勘定	50	44
持分法適用会社に対する持分相当額	48	7
その他の包括利益合計	213	448
四半期包括利益	1,189	1,626
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,141	1,580
少数株主に係る四半期包括利益	48	45

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

Ⅰ　前第１四半期連結累計期間（自　平成24年４月１日　至　平成24年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	クリーンケアグループ	フードグループ	その他（注１）	計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
売上高						
外部顧客への売上高	27,112	10,891	2,631	40,635	―	40,635
セグメント間の内部売上高又は振替高	256	3	579	839	△839	―
計	27,369	10,894	3,211	41,475	△839	40,635
セグメント利益	3,525	431	185	4,142	△1,615	2,526

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額△1,615百万円には、セグメント間取引消去△３百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△1,611百万円が含まれております。

３．セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「フードグループ」セグメントにおいて、平成24年５月に蜂屋乳業株式会社を子会社化したことに伴い、404百万円ののれんを計上しております。

なお、のれんの当第１四半期連結累計期間の償却額及び当第１四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	クリーンケアグループ	フードグループ	その他	全社・消去	合計
当第１四半期連結累計期間償却額	27	0	－	―	27
当第１四半期連結会計期間末残高（注）	204	404	－	―	608

（注）当第１四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成24年５月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高404百万円（フードグループ）、平成20年７月に取得した株式会社アミ・コーポレーション（現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合）ののれん残高62百万円（クリーンケアグループ）と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高109百万円（クリーンケアグループ）等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ　当第１四半期連結累計期間（自　平成25年４月１日　至　平成25年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	クリーンケアグループ	フードグループ	その他（注１）	計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
売上高						
外部顧客への売上高	27,335	11,747	2,735	41,818	―	41,818
セグメント間の内部売上高又は振替高	248	2	697	949	△949	―
計	27,584	11,750	3,433	42,767	△949	41,818
セグメント利益又は損失（△）	3,305	△245	153	3,213	△1,687	1,525

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額△1,687百万円には、セグメント間取引消去６百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△1,694百万円が含まれております。

３．セグメント利益又は損失（△）は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

当第１四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第１四半期連結累計期間の償却額及び当第１四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	クリーンケアグループ	フードグループ	その他	全社・消去	合計
当第１四半期連結累計期間償却額	44	20	―	―	65
当第１四半期連結会計期間末残高（注）	383	332	―	―	715

（注）当第１四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高366百万円（クリーンケアグループ）と平成24年５月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高323百万円（フードグループ）等であります。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。